



竹川の  
うらやま  
とほ  
ふ  
そこ  
ありま

竹川



源氏學深世画合

加羅小木履造りとも  
奢とそる小足恋の重荷を  
秤ふひに幾万斤小更共黄金花さく  
国のあに其意小不任との事なり。然るに  
中々色ぬりのい其中小うたふまのさ川竹の  
意気地小く張の高尾か青葉の相根の  
後の秋ひて千巻の紅葉色やく命の落  
葉散る。あつらひ小にき着て花の  
操を後の世に流したり

填詞 花笠外史

左金吾頼兼



一勇齋  
國之廿才也



版伊勢市

